

安曇野で活動 インタビュー

今回は、安曇野の地域課題に取り組むため、「ファシリテーション」というスキルを学ぶ取り組みを立ち上げた、有志の方々の活動をご紹介します。

・Q1.どんな活動をしていますか？

☞ 「ファシリテーション」とは、一般的には会議で使われますが、近年は震災などの被災でも活用され、脚光を浴びている活動です。様々な声を取り込んで避難所運営を改善したり、復興支援活動の推進に大きな成果をもたらしました。対話を通して、本音を出して課題解決へ向かう手段として、対話法やファシリテーショングラフィックは有効であると考えています。月に2回の活動では、市内の様々な活動で使えるよう、有志で共に学び技術を身に付けようと取り組んでいます。

・Q2.どんな思いで活動に取り組んでいますか？

☞ 年上の人や経験値の高い人の発言で、解決の方向が決まることはよくあることですが、決してそれ自体が悪いことではありませんが、違った意見を排除しては課題解決の方向性を誤ってしまう恐れもあります。対話術を使って、多様な意見に耳を傾け、前向きな解決の道筋を模索することは、今後ますます重要になってくると思われます。

・Q3.今後の展望はありますか？

☞ 月2回の活動では、講師を招いたり、自主勉強会を行うなど、ファシリテーションの対話術の習得に励んでいます。この対話術は、例えば、地域の自治会等での課題解決にも効果が得られるものだと思います。関心のある方は、ぜひお声がけください。

今回のインタビューは、コミュニティや地域の活性化、安曇野の未来創りのため、ファシリテーション対話術を活用して実現していこうと活動している、児玉真弓さん(安曇野ファシリテーション部！部長)にお聞きしました。



ファシリテーション部の活動風景

安曇野さんさん通信 第9号



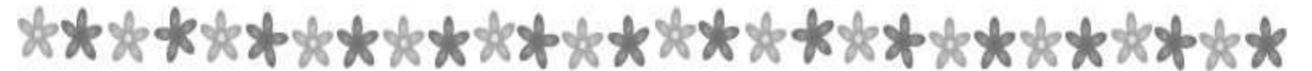
(2019(令和元)年11月20日発行)

ごあいさつ

里山の紅葉と雪化粧をまとった北アルプスの山々のコントラストが美しい季節となりました。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。台風19号とその後の豪雨では千曲川決壊など県内でも多くの被害がありました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り致しますと共に、被災された皆さまにお見舞いを申し上げ、一日も早く平穏な日常が戻りますことをお祈り致します。



おかげさまで議員着任から2年が経ち、折り返し地点を迎えました。日頃からの皆さまの温かなご支援を感謝しております。皆さまに市政を身近に感じて頂き、誰もが幸せに暮らせる地域を目指して活動して参ります。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。



「安曇野、よいまちつくろう」

安曇野の課題を深掘りし、発信します。今回は身近なトピックより。

議長・副議長、常任委員会等の改選 …

安曇野市議会では、申し合わせにより、任期4年の半分の2年毎に改選を行います。議長・副議長は選挙にて選出し、常任委員会、特別委員会、近隣自治体の議員と構成する広域議会の担当等も変更となりました。私は引き続き「福祉教育委員会」と「広報特別委員会」に所属し、新たに副委員長を拝命しました。また広域議会では、穂高クリーンセンターやあづみ野ランド等を運営する「穂高広域施設組合」の組合議員となりました。

初心を忘れず、一議員としてはもとより、円滑な委員会運営を通して、議会の発展とひいては市民の皆さまの声を反映できる安曇野市を目指して、鋭意努力してまいります。引き続き皆さまにはご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

「こども祭り 安曇野 ～つながる～」

11月中旬に穂高地区の会場で開催された企画の主催は、「ママの働き方応援隊 長野松本校」。赤ちゃん先生の取り組みなど、これまで折に触れて取り上げさせて頂いていますが、ママの立場・目線から、子どもの成長と社会の活性化を願い、子育てしやすい環境作りや、ママの活躍の場づくりなどに取り組んでいます。イベントでは、大勢の出店を募り、子どもに新しい自分や可能性を発見してほしいという思いから子どもたちを各ブースに配属して仕事をする「お仕事隊」も行いました。笑顔いっぱいの会場には、1,000名もの方が来場したそうです。このような地域を活性化する取り組みにも、注目してまいりたいと思います。



発行 小林ようこ後援会 安曇野市穂高 8108 番地 TEL 0263-82-6090
e-mail yoko@sunnydayazumino.com
URL <http://www.sunnydayazumino.com/> Facebook「小林ようこを応援しよう」